

大分の空里の駅武蔵・道の駅くみにみがオープン一周年



▲もちまきやヨモギもちの無料配布に多くの皆さんが参加（里の駅武蔵）

里の駅武蔵は昨年の4月オープン。4月1日(日)の記念感謝祭ではもちまきや小城地区のむつみ会のみなさんによるヨモギもちの無料配布、しいたけ、菓子などのつかみ取りが行われ、多くの買い物客で賑わいました。

里の駅を運営する「大分の空634」代表の安永隆一さんの話。「一昨年11月に、里の駅の着工が許可され平成18年3月31日のオープンまで、実質4ヵ月しか工事期間が無く、準備に苦労しました。オープンしてみると、『大分トキハ』や『HIヒロセ』のアンテナショップのお客さんが、ドライブがてら買い物にきてくれました。おかげさまで、この一年の売上については、店員の皆様も頑張ってくれて、よく健闘した方だと思っています。市外のお客が多いので、これからの課題は、市内の方にもっと利用していただくように工夫・PRをして、努力していきたいと思っています。ここは、大分の空の玄関ですし、“おもてなしの心”で、里の駅のまわりに花を植えたりしていきます。市民の皆さん、毎月第1日曜日は、いろいろなイベントをしていますので、ぜひ一度遊びに来てください。」

武蔵町の「大分の空里の駅武蔵」と国見町の「道の駅くみにみ」がオープン一周年を迎え、それぞれ記念のイベントが行われました。

また、「道の駅くみにみ」では、4月27日(金)に開会行事があり、ちよるちよる市場の会前後泉会長のあいさつに続いて、来賓の都留喜多男国見総合支所長、堀昌崇県東部振興局次長、小野弘利県議会議員が祝辞を述べました。

この後、もちまきやお米のすくいどり等のイベントが行われ、商品も記念価格で安くなり、市内外からの大勢の買い物客で賑わいました。

店長の末次知和さんは「この一年は、ある程度の予想はしていたものの、訪れるお客様が少なめでした。フェリー基地があるからか、山口県や北九州からのお客様が、市内の方より多かったと感じています。国見町のイチゴやメロン、乾しいたけ等の農産物は、どれも品質には自信がありますので、一度いらっしゃったお客様にリピーターになっていただけるよう努力していきます。権現崎周辺の整備も進んでいるので、お客様が増えるのではと期待しています。」と今後の抱負を語ってくれました。



▲開会行事であいさつする前後会長



▲買い物客で賑わう店内(道の駅くみにみ)

風はくみにみから

～地域活性化をめざし

NPO法人立ち上げ～

4月25日(休)午前10時30分から、国見生涯学習センターみんなかんホールで、来賓や関係者等約50名が出席して、特定非営利活動(NPO)法人「国東半島くみにみ粋群*(すいぐん)」の設立総会が行われました。

この法人は、地域住民や都会で暮らす住民に対し、国東市の神社仏閣・景勝地・伝統行事等の地域資源を生かした観光・交流活動の拡大を図ることや、地域リーダーとなる人材の育成等を通して、くみにみ地域の活性化を目的として設立されました。

設立に向けて、国見地域のまちづくりグループや各種団体、国見総合支所、合併周辺部対策事業の一環として大分県東部振興局とが「プロジェクトチーム」を結成し、この日を迎えました。

国見総合支所の都留喜多男支所長の進行で、すべての議事が承認された後、来賓の野田侃生市長が「国見の皆さまのパワーと大分県東部振興局の絶大なご支援でここまでこれたと思います。私は、国東市自体が大分県の周辺部であるという認識をしています。将来的には『国東半島くみにみ粋群』になるよう期待しています。他の市内のNPO法人とも手を携えて、国東市全体の振興のために力をお貸しください。」と祝辞を述べました。

*「粋群(すいぐん)」とは、その昔周防灘沖で活躍した「浦部水軍」にちなみ「元気だった時代にあやろう」と名づけたそうです。



▲理事長に選ばれた山本純夫発起人代表



▲総会のような様子